

弥兵衛の銅像完成

松江で除幕式 治水に尽力

江戸時代、日吉村現

・松江市八雲町日吉

を洪水の被害から守るため、治水に尽力した周藤弥兵衛（1651～1752年）の銅像が完成し、1日に日吉親水公園（松江市八雲町日吉）で除幕式があ

った。

弥兵衛は松江藩の官吏で、意宇川の水害に悩まされてきた村を守るため、56歳の時、のみとつちだけで岩山を切り開き始めた。私財も投じ、42年間かけて川の流れを変え、村を

救った。今でも現場にはのみの跡が残り、「切通し」と名付けられ、多くの市民に親しまれている。

銅像は高さ2・65メートル、重さ1・3ト。郷土の偉人を顕彰する出版活動などを続けてきた「小松電気産業」（松江

市乃木福富町）の小

松昭夫社長が制作を決断した。飯南町出身の画家、故高田勲さんのイラストを基に、のみとつちを持ち、躍動感あふれる弥兵衛の像となった。

【長宗拓弥】



披露された周藤弥兵衛の銅像—松江市八雲町日吉で

この日の式典には、

地元や関係者ら約120人が出席。小松社長から、地元で弥兵衛を紹介する活動などに取り組む「周藤弥兵衛顕彰会」（約40人）の矢野秀行会長に銅像が贈